

# 俳諧

子規自筆 (木版刷) 俳人芭蕉 送料十錢

蕪村自筆 (木版刷) 俳諧三十六歌仙 送料十錢

内田魯庵 芭蕉桃青 (近刊)

高濱虛子 俳諧一口噺 郵税六錢

# 畫集

中水澤弘木 富士十二景 (二) 各送料

光版 富士十二景 (三) 價各十錢

卅九年度 白馬會紀念畫集 郵税九錢

小林萬吾 風景水彩畫帖 郵税五十錢

島村抱月 早稻田文學

三宅雪嶺 日本及日本人

月刊

每月一回一日發行一冊金廿錢  
郵税一錢五厘半年一圓二十錢  
一年二圓四十錢(郵税不要)  
每月二回一日十五日發行一冊  
十五錢郵税一錢五厘半年前金  
一圓八十錢一年三圓六十錢

# 日本及日本人

東京芝區櫻田鍛冶町十  
編輯所 政教社  
○每月二回一日十五日  
一冊十五錢郵税一錢五  
厘○半年十二冊一圓八  
十錢(郵税不要)

「日本及日本人」は新聞「日本」と雑誌「日本人」とを併せたるものなり。大なる權威を有したりしが、新社長に於て多年の主張を狂ぐるに逢ひ、即ち雪嶺氏以下二十餘名の社員袂を連ねて退き「日本」の精神を廢滅せしめたり。また社會、文藝、宗教の各方面に於て重鎮たりき。是れを併せたるものにして、改題以後日向は淺しと雖も、已に鬱然として政界、思想界共に重きを置けり。○「原生界」と「副原生界」は雪嶺氏が哲學上の大文字にして連載已に三十回、また思想界の異觀たり。古島一雄氏の人物評論、八太霞山氏の海外時論、混世氏の學海譚叢、國分青厓氏の評林、三宅花園女史の花の趣味、長谷川胡蓮氏の小説、井上蕪村氏の露國文藝家、列傳、内藤鳴雪、河東碧梧、桐兩氏選の俳句、空廬主人の篆刻、内藤湖南氏外各家及政敵社同人の時事評論、角田劔南、千葉江東兩氏の文藝評論等、每號各様の光彩を放つ。

發兌元

東京芝橋區五郎兵衛町廿二  
(振替貯金口座三二八二七番)

金尾文淵堂



# 早稻田文學

東京市牛込區藥王寺前  
町二十番地  
編輯所 早稻田文學社  
東京牛込區矢來町  
二十二番地  
文藝協會事務所

○月刊一日發行一冊廿錢郵稅一錢半○一年前金貳圓四十錢(郵稅不要)

一本誌は元坪内逍遙民主幹の下に七年間文壇の重鎮たりしもの、一旦休刊の後明治三十九年新なる希望と抱負とを以て再興せられたるものなり。

一本誌は文學、美術、演藝、宗教、哲學、史傳、風俗、各方面の評論及び小説、詩歌、脚本等の創作、翻譯を文壇の新舊諸派にわたりて、選抜採録すると共に、每號巻頭には數十頁の長論說若しくは創作、翻譯等の完結せるものを載せ、是而已にても優に一冊の著書たるに足るの面目を具へしむ。

一本誌の彙報欄は文藝教育諸方面の現状を彙集し評拆して精博公平穩健を旨とし文壇の趨勢をして一眸の間に去來せしむ、是れ本誌の壇場なり。

一本誌現在の主幹者は鳥村抱月氏なり。  
一本誌は文藝協會と聯合し之が機關として、文藝の實際方面に活動する外、採録する所の文章には何等の偏したる標準をも挾むことなし。

## 發兌元

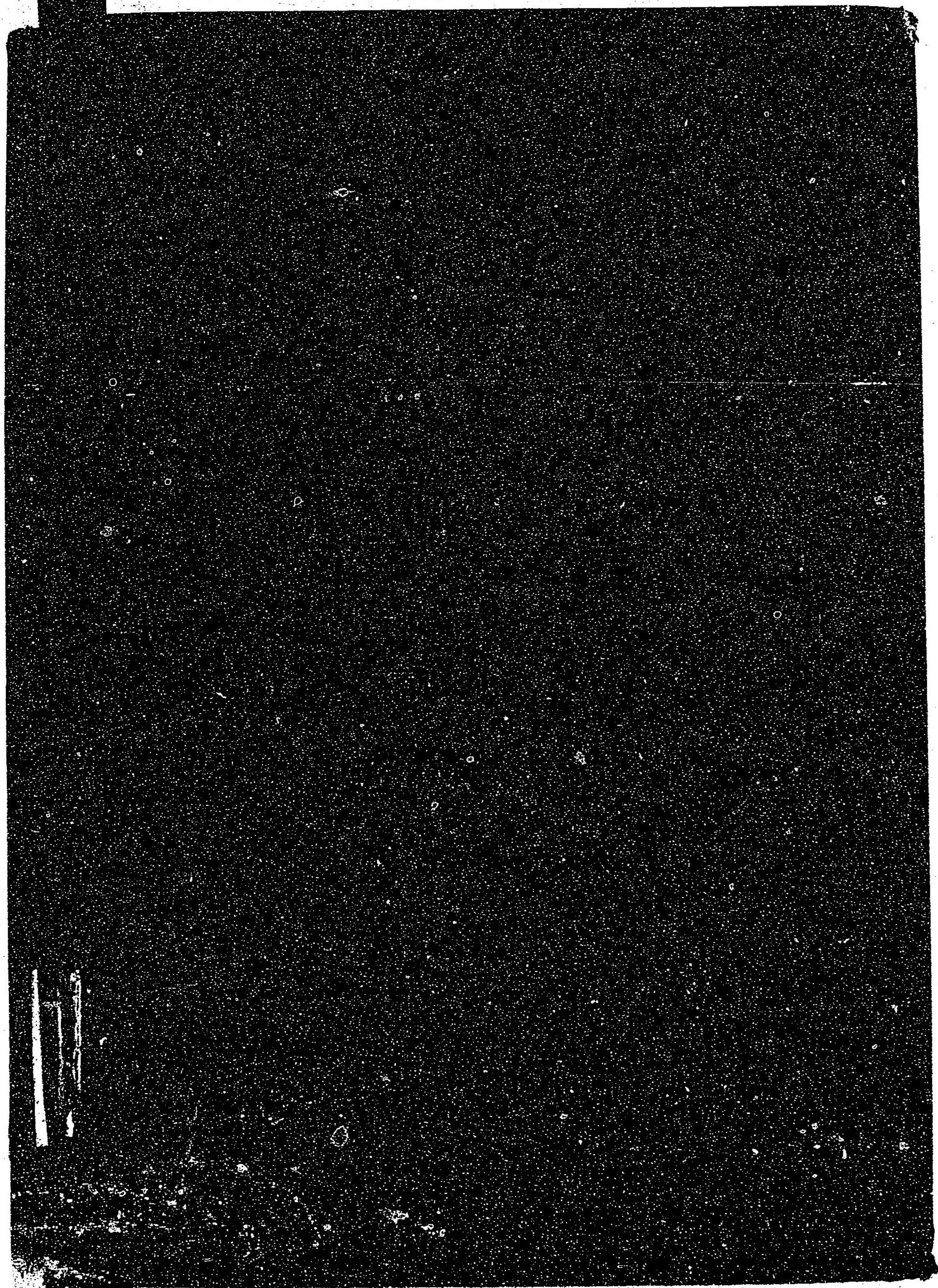
東京市京橋區五郎  
兵衛町二十二番地

## 金尾文淵堂



31  
333







31  
333

009551-000-4

31-333

現代青年論

伊藤 銀月 / 著

M40

AAE-0575





